



天理駅前広場 ヨフブン
photo Takumi Ota

奈良県

天理市

オーガニックビレッジによる
ネイチャーポジティブ
地域経済の創造



人口 61,328人 面積 86.42 km²

都市の特長

古代より「大和青垣」とうたわれた美しい緑に恵まれ、自然、歴史、宗教など多彩な性格を持ち合わせた都市。日本最古の道である「山の辺の道」や最古の神社である「石上神宮」などを有する。また、いちごや柿の栽培が盛んに行われている。

天理市
TENRI CITY

「里山発！環境共生による地域ブランド向上プロジェクト」

天理市は、若年層の流出、地域コミュニティの希薄化、農業における後継者不足という課題を有している。オーガニックビレッジの実現、大学と連携した人材の育成、地元企業との連携による、有機農業をはじめとした「農」のプラットフォームを確立する。「農」の産品は、オーガニックな農産品としてブランド認定することで新たな付加価値を付け、地域通貨等を活用して流通させることで地域経済力の創造を図る。

01 産官学連携による人材育成、産業創出、活躍の場づくり

天理駅前を農業・観光振興に向けた人材育成の拠点とし、天理大学・モンベル共同体と連携した「学び」「実践」「ビジネス展開」を切れ目なく行うことができる人材育成のプラットフォームを創造する。天理大学サテライトキャンパスにおける農業・観光の講義に加え、共同体が展開するカフェ、観光案内所等でのインターンシップにより実践的に学べる人材育成プログラムを実施する。

観光コンシェルジュとして活躍する大学生



02 持続可能な『農』のプラットフォーム構築

産官学連携による人材育成プログラム履修生が、天理市の新たな魅力を発掘・発信し、地元農産品を使った新商品の開発等の新たなコンテンツを創出していくことで、将来に渡って持続可能な農業・観光振興を図る。また、有機農業によるオーガニックビレッジの取組と連携し、生産した産品をブランド認定することで付加価値を付け、自然と共生しつつ、地域経済の活性化も目指す。

耕作放棄茶畑を活用し、オーガニックのお茶を栽培



03 『共感』がたぐ地域通貨による『地域経済力』の創出

収益の一部は地域の支援団体へ



天理市のデジタル地域通貨イチカを活用して、生活と地域経済を応援し、支え合いの促進を図る。また、有志の加盟店がイチカによる収益の一部をこども食堂など地域の支援団体へ寄附を行うことで、日常の買い物や食事がまちの支援へとつながる「イチカプラス」という取組により、さらなる地域愛着とwell-being(支え合い)の向上を図る。地元消費と支え合いを循環させ、地域通貨を使うことに共感が得られる住民参加のまちづくりを推進する。

特産品のいちご



親里大路の美しいイチゴ並木



各取組の詳細はこちら

取組 01



取組 02



取組 03



インタビュー

Interview



(左) 健一自然農園 代表 伊川 健一さん

(右) 天理市長 並河 健さん

01 農地・里山再生を通じた地域の魅力向上

天理市長 並河 健さん

SDGsの推進には「あるものをどう活かすか」が重要です。例えば「耕作放棄」された茶畑にはネガティブなイメージもあるでしょう。しかし視点を変えれば、長期に渡り農薬等が断たれることで土壌に微生物が増加し、オーガニック栽培に適した茶畑に変わっていたことに気づきました。周辺の里山からの薪も、お茶の焙煎などに必要なエネルギー源になります。こども達をはじめ、地域や企業、大学と連携し、農地や里山から新たな価値を生み出す中で、循環型のまちづくりへの共感を広げ、天理市の活性化につなげます。

02 意見を傾聴し共感箇所を探ることで、多様な主体と連携

健一自然農園 代表 伊川 健一さん

里山地域づくりアドバイザーとして、福住校区に広がる放棄茶畑をオーガニックな茶畑に変えるプロジェクトに関わらせていただいています。また、地元小学校へのお茶づくりに関する授業や茶園や、その周辺の生き物調査などにも取り組んでおり、これらの取組が地域外にも徐々に広がってきていると感じています。この地域で実践している取組は日本の地方創生、そして中山間地域の課題そのものだと考えています。かつて福住校区の誇りであったお茶づくりの蘇生を通して、地域住民の方や企業、行政と連携し、他地域での里山再生に貢献できる雛形を作っていきたいです。

日本最古の道
「山の辺の道」



今後の展望

産官学が連携した将来の農業・観光に貢献できる人材育成や、豊かな自然資本を活用したオーガニックビレッジの取組を核として、多様な主体との連携による農作物の生産・加工・ブランド化に取り組んでいく。また、地域での消費行動を誘発し、地域通貨の利用促進を図ることで、地域経済の循環につなげる。

そのほかの取組み

官民連携による新しいリサイクルプログラム

一般的にはリサイクルされない商品の回収箱を市役所や学校に設置し、廃棄物が限りなく削減されたゼロウェイスト社会の実現を目指す。



食品残渣削減プロジェクト(みんなの学校プロジェクト)

給食などの食品残渣(野菜くずや食べ残し)を堆肥化する「食品残渣発酵分解装置」を市内小学校に設置し、児童が環境問題を学ぶきっかけとする。



フードドライブによる食品ロス削減

一般家庭に余っている食材や防災備蓄食料などを、こども食堂や必要とする世帯に配布することで、食品ロス削減や子どもの貧困対策に貢献する。

